

## 事業成果報告書

※後日、フォーマットをメールで送信いたしますので、次のアドレスにメール添付でお送りください。

竹村和子フェミニズム基金 <t-fund@npo-ochanomizu.org>

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)
茶園敏美 (代表者名: )
2. 研究または活動のテーマ(課題名)
『パンパンとは誰なのかーキャッチという占領期の性暴力とGIとの親密性ー』出版助成
3. 助成額
470,000 円
4. 実施期間
2014 年 7 月 ~ 2014 年 9 月
5. 実施状況
2014 年 7 月 31 日 インパクト出版会へ制作補助費支払い。 2014 年 9 月 30 日 インパクト出版会より第 1 版第 1 刷発行。
6. 事業成果と自己評価
造本:A5判、並製本 カバー・帯四色、表紙・一色 定価:本体 2800 円+税、初刷部数:1000 部  今回、出版助成をいただけたことで 9 月末にインパクト出版会から、『パンパンとは誰なのかーキャッチという占領期の性暴力とGIとの親密性ー』を出版することができました。 本書は、占領期に「パンパン」(米兵相手の街娼)といわれたかたがたご自身の記録を精査することで、彼女たちにさまざまな多様性があったこと、米兵との関係性が複雑であったこと、また性病対策という屈辱的な性暴力を被った彼女たちには独自のエンパワメントがあったこと、そしてあらゆるおんなたちが、互いの存在を認め合う可能性に焦点をあてました。 本書出版後まもなく、一橋大学 CGraSS 公開レクチャー・シリーズ(11 月 21 日)、複数の研究機関メンバーによるセックスワークセミナー (12 月 8 日)、京都大学アジア教育研究ユニット(1 月 24 日)、関西社会学会 研究活動委員会 セクシュアリティ/クイア・スタディーズグループ(2 月 1 日)等で本書の報告を行うことができました。12 月 8 日の研究会は、京都大学の研究大学強化促進事業「百家争鳴」プログラムから支援金をいただくことができました。また、1 月 24 日の研究会については、2015 年 4 月 3 日付『京都新聞』でかなり大きく報道されました。 『京都新聞』が研究会の様子を新聞紙上で詳しく報じてくださったことにより、これまで公に語

ってはないものとされてきた「パンパン」といわれたかたがたのことを、今一度みなさんと考える大きなきっかけとなりました。またテレビ番組でも、彼女たちのことを真摯に取り上げようとする動きもでていきます。

わたくしごとで恐縮ですが、2015 年度日本学術振興会科研費基盤研究 C(5 年間)を得ることができました。諸事情で研究を中断していた時期がありましたので、これまで公的助成金にアクセスするのは困難でした。このようなわたしが基盤 C を受けることができたのは、本書を出版することができたおかげです。彼女たちが声をあげやすい世の中になるよう、これからもかかわっていきます。

竹村和子さんの助成金のおかげで本書は、性暴力にあわれたにもかかわらず、いまだに尊厳を奪われ沈黙しているお姉さまがたの尊厳を取り戻す大きな支援となります。ありがとうございます。B-wan 特集 竹村和子さんへの想いのページで本書を紹介させていただきました。

<http://wan.or.jp/book/?p=8200>